『第5回学生が選ぶインターンシップアワード』学校応募データ

NO.200270

学校情報			
		学校区分	私立
		管理ID	200270

ISタイトル

アスリートインターンシップ

オリエンテーション　事前学習（実施項目）

インターンシップ参加目的の明確化　インターンシップの内容説明　職業適性・自己理解などを深めるワーク　業界・企業・仕事内容の説明　マナー等社会人基礎の講習・レクチャー　学生1人ひとりに対する目標設定　その他

オリエンテーション　事前学習 内容詳細（自由記述）

オリエンテーション（事前授業）は、学生アスリートが日々の競技生活の中で培っている「PDCAサイクル」「判断力」の気づきを促し、その顕在化と言語化に重点を置いて２時間×８コマの合計16時間で実施している。具体的には、以下のとおり。
①本学体育会クラブ出身者の卒業生２名（大企業勤務者と中小企業経営者）をゲスト講師として招聘し、学生アスリートが社会で活かせる強みについて学ぶ。
②毎回の個人ワークとグループワークを通じて受講生自身の強みを言語化する。
③実践力の向上を図るケーススタディ教材を用いたグループディスカッションで、限定された条件下における最適な判断を下すチームトレーニングを行う。
④企業分析・企業研究から就業体験の目標設定を焦点化する。
⑤マナー講習を通して効果的に社会性を高める。
オリエンテーションのゴールは、学生の主体的な行動によって実習での学びを最大化できるよう、また、学生自身が高い成長実感を得られるよう、「企業から与えられるテーマ」と「学生自身が設定するテーマ」をしっかりと認識させ、実習に臨む準備を整えることである。

インターンシップ　実施項目

【実務体験】実際の業務を一部実施 【実務体験】実際の業務を全て実施 【実務体験】社員の外回りの業務への同行 【疑似体験】ロールプレイングやシミュレーション形式の仕事体験 【疑似体験】課題に対するグループワーク（企画立案、課題解決、プレゼンなど） 【疑似体験】課題に対する個人ワーク 【交流】社員の同行等による仕事見学オフィス・工場・研究所などの職場見学 【交流】社員との座談会 【交流】参加学生との座談会 【その他】人事や社員による講義・レクチャー 【その他】就職活動に対するアドバイス・レクチャー

インターンシップ　内容詳細（自由記述）

本科目は、本学体育会クラブに所属する学生を対象の開講科目として、産学協働でのキャリア形成支援教育に協力いただける企業での就業体験と、その前後に学内で実施する事前・事後授業への参加を通じて、自身で進路選択ができる力を養うことを目指す。受講生が取り組む競技生活で得た学びや経験と実社会との繋がりを意識することを通じて、競技生活で日々磨いている自身の強みを自覚することを目的としている。就業体験においては、学生アスリートとして培った能力を実社会で実践する場として位置づけている。具体的には、最終日に設定されている受講生の発表に向けて取り組む過程で、PDCAサイクルを回し繰り返し判断することや、発表に対するフィードバックを通じて、自身が有する能力（PDCAサイクルを回す力・判断力）を理解することを狙いとしている。「対面」での主な実習内容は、オリエンテーション（会社説明）、会社見学、コールセンターでの体験、オンライン商談の見学、新サービスの企画立案、取引先への営業同行、現場視察、事務作業、設定テーマに対する報告・準備等である。就業体験の依頼にあたっては、学生が１つの業務が様々な取引先や社内の部署、人との繋がりによって成り立つことを理解できるよう、業務の連続性や関連性を意識したプログラムの設計をお願いしている。製造業を例に挙げると、資材の発注・納品・検品・製造ラインでの組み立て・梱包、その間に取引先への営業同行というように、受講生が実習先企業における業務全般を理解できるプログラムとなっている。「オンライン」の主な実習内容は、事業概要の説明と質疑応答、社員懇談会とインタビュー調査、提案書の作成・発表、提供されたテーマに対する報告の準備等である。「オンライン」での就業体験にあたっては、企業担当者と受講生の定期的なコミュニケーションをお願いすることで、受講生の単なる自主学習にならないように工夫をしている。具体的には、企業担当者と受講生が、実習日の朝・夕の２回（または朝・昼・夕の３回）は必ずオンライン上でコミュニケーションをとり、就業体験の進捗確認や疑問点のタイムリーな解消に繋げている。更には、必要に応じて担当教員と受講生がコミュニケーションをとり、就業体験における不安や悩み、疑問点の解消等のサポートを行うことで、オンラインであっても１つでも多くの学びを受講生が感じられるよう工夫をしている。

協力社員の属性

部長　課長（マネージャー）　主任（チームリーダー）　若手社員　社外の人（お客様、取引先など）　その他

具体的社員交流

受け入れ先での接点においては、人事担当者のみならず、受入部門の担当者、営業同行であれば取引先の担当者等、就業体験を通じて様々な方々と交流する機会が設けられている。
例年、受講生は様々な企業人との交流を通じて「働くことの具体的なイメージ」の形成に繋げているだけでなく、働くことに対するネガティブなイメージがポジティブに変わることも大きな特徴である。また、受講生にとって就業体験における企業人との交流は、満足度が高い点からも重要な機会となっている。
一方で、企業側にも受講生との交流から新たな発見があることも事実である。過去には、営業同行を中心とした就業体験において、受講生が毎日異なる役職・年代の営業担当者に同行した後、営業担当者の個性（それぞれの営業スタイル）をプレゼンテーションにまとめて発表した結果、実習先でとても高い評価を受け、その実習先においては、営業担当者のミーティングが定期的に開催されるということに繋がった事例がある。企業に対する就業体験の依頼時には、上述の事例を用いながら、受講生が様々な企業人と交流できる機会を提供いただくようお願いしている。

インターンシップ情報					
開催月	2021年12月　2022年1月　2022年2月				
		学生の受入日数	５日間以上	総受入人数	37
対象属性（文理）	特に対象は決めていないまたは受け入れ先によって異なる			単位認定	はい
低学年参加	大学低学年を積極的に受け入れていて、参加があった				
他学校などとの連携か？	いいえ	報酬・支給	交通費の支給あり　食事代の支給あり		
実施形式	一部オンラインで実施				

フィードバック手法

個人に対する口頭と書面の両方

フィードバック時間	1時間以上	フィードバック頻度	（2日間以上のプログラムのみ）期間中学生が参加した日は毎回行った

FB内容詳細（自由記述）

企業担当者から受講生に対して、口頭及び書面の両方でフィードバックをいただくよう依頼している。具体的には、受講生が一日の最後に「午前・午後の業務内容」「業務の感想（得られた成果）」「今日のチャレンジ目標」「実際にチャレンジした内容」「チャレンジが成功（失敗）した理由」「感想」を日報としてまとめた後、受講生をご指導いただいた企業担当者より、内容の確認及びフィードバックをいただくことを通じて、学びをその日のうちに深める工夫をおこなっている。また、就業体験の最終日には、受講生が事前に企業から与えられたテーマに対するプレゼンテーションを行い、企業担当者から受講生に対して直接フィードバックをいただくことで、PDCAサイクルを回す力・判断する力が実社会でどの程度通用したかを受講生が自ら確認する機会となっている。例年、受講生からは、実社会でPDCAサイクルを回す経験や判断をする経験を通じて、自身の実力不足を感じる声が多く聞かれ、受講生が残りの学生生活で更なる成長に向けたモチベーションを高める機会ともなっている。このことから、就業体験の依頼を行う際には、フィードバックを受入条件の１つとして設定している。

フォローアップ　事後学習（実施項目）

学生自身によるインターンシップ経験の振り返り・学びの言語化　個人面談　講義・レクチャー　発表会・報告会

フォローアップ　事後学習（自由記述）

就業体験後のフォローアップ（事後学習）においては、学修者本意の教育を心掛け、２時間×５コマの合計10時間を使い、「就業体験で何を学び、身に付けることができたのか」を各個人で振り返り、言語化すること、他者と共有することを通じて就業体験における気づきや学びを深めることに注力している。具体的には、２時間×２コマの合計４時間を使い、各クラス内で就業体験の振り返り・発表、発表に対する学生同士のフィードバックを通じて、他者の視点も取り入れた振り返りをおこなっている。その後、２時間×３コマの合計６時間を使い、成果報告会を実施している。成果報告会においては、企業担当者を招聘し、受講生の報告に対する質疑応答、就業体験や報告内容に対しフィードバックいただく機会を設けている。昨年までは、自社に受け入れをした受講生の発表に対するフィードバックに留めていたが、今年度より受講生の学びをもう一段階掘り下げることを目的に、自社で受け入れをしていない受講生に対して、企業担当者より積極的に質問をいただく時間を設けている。

工夫ポイント（自由記述）

教育的効果を高める工夫として、主に２つのことに取り組んでいる。①事前授業で就業体験における自らの目標・実行計画の策定、事後授業で設定した目標に対する到達度のチェックである。目標を設定することで、受講生が１つも多くの学びを吸収できるよう仕掛けをおこなっている。②教育工学を専門分野とする教員の協力を得て、定量的・定性的な調査の実施、教育効果の検証、カリキュラムの改善を行っている。具体的には、事前と事後に実施する「PROGテスト（リアセック社）」で定量的に評価し、授業終了後に実施する「受講生調査」、「半構造化面談（テキスト分析）」を通じて質的な側面の教育効果を検証している。今年度は、教育効果として明らかになった「行動変容」「キャリア形成イメージの獲得」の達成に着目し、「行動変容」が「部活動への転用」から「正課科目への転用」に展開することを課題として教材開発に反映させている。更に、「良い教育は良い研究から」をモットーに、本学の紀要論集「高等教育フォーラム」や学会での論文投稿を通じて、研究成果を広く発信することに加えて、発信内容に対する第三者の評価をもとに、翌年度のカリキュラム改善に繋げている。

教育的効果（自由記述）

上記、【実施後フォローアップ】に記載している内容に加えて、受講生自身が学修成果を可視化できるよう、教育的効果の測定及び測定結果に対するフィードバックを行っている。具体的には、「PROGテスト」で測定する「リテラシー」と「コンピテンシー」について、事前と事後及び、全国平均との比較を通じて、受講生自身が現在の立ち位置を理解できるようにフィードバックする機会を設けている。また、フィードバックにおいては、現状理解に留めるのではなく、今後の学生生活において能力を伸長させるためにどのようなことを心掛け取り組むことが大切かという部分まで具体的に掘り下げることで、今後の学生生活における目標設定までをおこなっている。その他には、受講生が本科目で身につけた「自ら進路選択できる力」を今後の就職活動において発揮できるよう、本学で学生の就職支援を担っている進路・就職支援センターと、本科目の担当でもあるキャリア教育を専門とする教員の協力のもと、受講生の就職活動の支援（就職支援行事の実施・個別面談等）までおこなっているのも特徴である。

改善活動（自由記述）

産業界（企業）との協力・連携に力を入れ、年間を通してFace to Faceのコミュニケーションをとることに注力している。そのために、インターンシップ専門人材を含むキャリア教育センター職員が、①前年度の受入御礼及び当該年度の受け入れ依頼、②受講生の実習期間中の御礼及び学生のモニタリングを目的に、毎年２回以上訪問し、教員も適宜同行している。①では、教育目的・狙いに沿ったテーマ設定を産学協働で行い、それぞれの視点からより良いプログラム設計ができるよう議論をしている。②では、実習のモニタリングや企業担当者との意見交換から得た情報を担当教員に共有し、事後授業での学生へのフィードバックに活用し教育効果を高めている。また、プログラムのPDCAサイクルをまわすべく、教材・指導書作成の「担当者会議」、教育効果の検証・カリキュラム改善の「教育効果検証会議」、学生募集・授業運営準備等の「事務担当者会議」の３つ会議体において、年間を通じた議論を行うことで、カリキュラム改善に努めている。